

「血小板増多症を伴う一過性骨髄異常増殖症（TAM）」

に関する後方視的調査研究」へのご協力をお願い

1.研究の対象

JPLSG TAM-10 研究が行われた 2011 年 4 月 15 日～2014 年 2 月 28 日までに、東邦大学医療センター大森病院において TAM-10 に登録された患者さんのうち、本調査研究で比較対象群に選定された患者さん。

2.研究の目的・方法

一過性骨髄異常増殖症（transient abnormal myelopoiesis; TAM）は新生児期に末梢血で白血球芽球が一過性に増加する病態です。TAM のごく一部の症例では、高度な血小板増多症を引き起こすことが知られており、一般に高度の血小板増多症は血栓症や出血の原因となります。本研究では、「血小板増多症を伴う TAM」の疫学および自然歴や治療経過について、JPLSG TAM-10 研究（一過性骨髄異常増殖症（TAM）に対する多施設共同観察研究）の実施医療機関に後方視的アンケート調査を行い、本邦における「血小板増多症を伴う TAM」の実態を明らかにします。

今回の研究は JCCG・JPLSG TAM 委員会が行います。当院からは、上記対象患者さんの情報を研究代表者所属施設に提供します。研究代表者所属施設で収集した情報は、厳重に取り扱い、データの漏洩対策としてパスワードによって保護され、定期的な OS のアップデート・セキュリティチェックが行われているウィルス対策がなされたパソコンで管理します。

研究期間は 2023 年 7 月 6 日～2026 年 12 月 31 日の予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

診療録（カルテ）に記載された以下の内容を提供します。

『年齢、性別、診断日、血液データの推移、合併症、治療内容、白血病発症の有無、最終受診日およびその時の転帰』

収集においては、対象となる患者さんの個人情報には削除し、仮名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

4.外部への試料・情報の提供

本研究の調査票の授受は郵送・メールにて行います。収集データを外部へ提供することはありません。

5.研究組織

研究代表者： 才田 聡（京都大学医学部附属病院小児科）

研究協力機関：日本小児がん研究グループ（JCCG）血液腫瘍分科会（JPLSG）参加施設

ご不明の点などがありましたら、下記までお問合せください。

東邦大学医療センター大森病院小児科・臨床教授 高橋浩之（当院における研究責任者）